

月とお産



こんにちは、齋藤です。もうすっかり季節は秋ですね。秋といえば「中秋の名月」。皆さんご覧になられたでしょうか。中秋の名月とは旧暦の8月15日の月のことで、農業の行事と結びつき昔から豊穡の象徴として実りに感謝する特別な日だったようです。その中秋の名月が今年は8年ぶりに10月にみられるとあってニュースでも騒がれていました。

さて今月のM情報は満月についてです。古代マヤ文明では満月の日に家畜のお産が集中するといわれていた、と書いてある本を最近、別海図書館で読みました（休日はたいてい別海図書館にいます）。本当かな、言い伝えだろ、と高を括っていたのですが、なんと詳しく調べてみると、東京大学大学院農学生命科学研究科の米澤智洋先生という方が去年の9月に「月の満ち欠けが牛の出産に影響を与える」と論文を出していました。なんとその論文では、満月に出産率が高まるという俗説をホルスタインで当てはまることを立証しています。

研究グループは、北海道の農場で2011年9月から2013年8月の3年間に自然分娩した牛428件において、それぞれの出産がどの月齢で行われたのかを調べました。その結果、牛の出産数は満月前から満月にかけて多くなったことが示され、この傾向は初産牛よりも経産牛のほうがより顕著であると示されました。

本当に牛は不思議な生き物ですね。さて、これを書いている今日は6日、今月の満月の日です。今夜は分娩ラッシュかな、なんて想像しながら書いています。皆さんも是非、来月からの満月を意識してみてください。牛たちがざわついているかもしれません。

Yonezawa T, Uchida M, Tomioka M, Matsuki N (2016) Lunar Cycle Influences Spontaneous Delivery in Cows. PLoS ONE 11(8): e0161735. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0161735>